

善福寺池周辺グリーンインフラ計画の提案

善福寺川を里川にカエル会

善福寺川を里川にカエル会（通称：善福蛙）とは？

東京・杉並を流れる善福寺川を「里川にしたい」と願う人々の集まりです。名前の「カエル」はかけこぼし。カエル（変える）のは川だけでなく、人や価値観も含めてのこと。そしてカエルは両生類。川とまちを跳びまわり、自然と人々の両方にはたらきかけます。川は環境と人の心が豊かになる社会をめざして、みんなで考え、力を合わせて行動する。それが通称「善福蛙」です。身近な自然をみんなでカエルことが、やがて日本の元気にもつながると信じながら。



善福蛙が現地でワークショップを繰り返し、それらをまとめました。善福寺川が里川に還るための提案です。

「雨天時越流水（CSO）の流出抑制」

「都市型洪水の緩和」

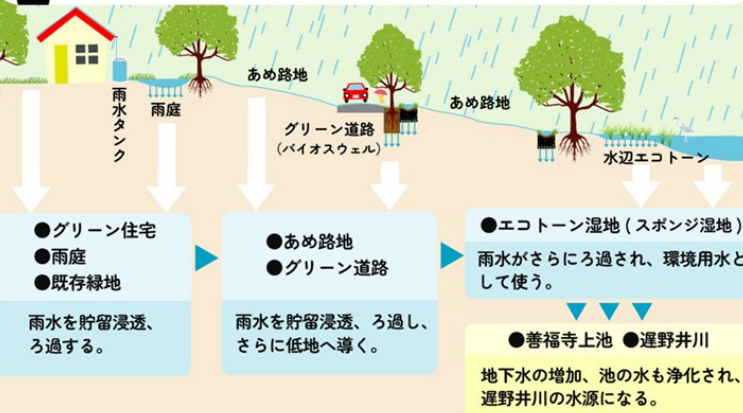
グリーンインフラ

「GIを通じた多世代共創の実現」

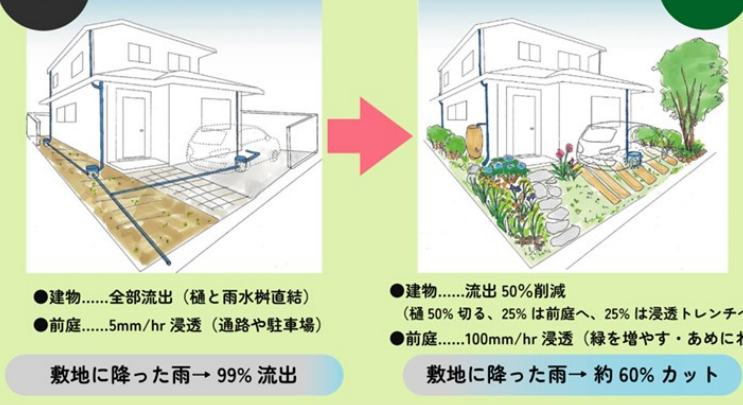
「善福寺池の環境改善」

「都市の水辺の生物多様性回復」

雨水の流れ・基本的な考え方～モデルエリア断面図～



善福寺グリーン住宅+雨庭



善福寺グリーン道路

（等高線に沿った道路）

通常は歩道として利用。雨水を捕捉し、ろ過します。砂利層に蓄えられる量を越え、小川として流下します。

▶▶▶ あめ路地へ

植栽まずは道路の1/3に配置。車の速度を落とす→貯留浸透→緑陰創出

善福寺あめ路地

（坂を下りる、谷地道路）

路地のアスファルトの一部をカットして浸透側溝に。雨水を捕捉し、ろ過します。砂利層に蓄えられる量を越え、小川として流下します。

▶▶▶ 善福寺池へ

エコトーン湿地

雨水が斜面を下って、最後にたどり着くのが池の周りの浅い湿地帯です。水辺の湿地帯は、雨水を浄化し、様々な生き物たちに、棲息、繁殖、採餌などの場所を提供し、生物多様性向上に大きく貢献します。



小さな自然再生

川底の環境を再生するために「小さな自然再生」を行なっています。変わってしまった川底の環境を再生するために「小さな自然再生」の実験を行なっています。「パープエ」と呼ばれる石積み川底を並べて、川の流れを変えることで、溜まった砂や土砂を下流へと押し流します。



市民によるモニタリング

善福寺川上流部で、毎月「川しらべ」を実施しています。本流と湧水の水质調査、川幅や水深、流速を記録し、川に棲息する生き物の調査を行っています。参加者は幼児から学生～大人まで、多様なメンバーで構成されています。

